

決 議

来るべき21世紀に向けて、国土の均衡ある発展を目指す多極分散型の国土形成を諮るためには、輸送力が限界に近づきつつあるとともに、施設の老朽化が進む東海道新幹線に代わる新たな高速鉄道の整備が急務となっている。

このような高速鉄道として、近年、超電導技術を応用した21世紀の中心的な交通機関として期待を集めているリニアモーターカーにより、首都圏、中部圏、関西圏を結ぶ「中央リニアエクスプレス」という新たな構想が大きな注目を集めている。

このような中で、平成2年度から超電導磁気浮上式鉄道（リニアモーターカー）の新実験線建設が着手されることとなり、21世紀初頭の実用化へ向けて大きな一歩を踏み出すこととなった。このリニアモーターカーによる「中央リニアエクスプレス」は、我が国の交通体系のみならず、政治、経済、文化をはじめとして、我々国民生活の上に計りしれない影響をもたらすものと考えられる。とりわけ、日本文化の中心地である京都が、来るべき21世紀に日本国内のみならず国際社会において期待される役割を果たし、また、文化、学術、産業、経済等の分野で大きな飛躍を遂げるためには、この「中央リニアエクスプレス」を「京都」に通すことが是非とも必要である。

よって、「京都府中央リニアエクスプレス推進協議会」は、設立趣旨にのっとり、次の事項の実現に向け、国及び関係政府機関等に対し、強力に運動を展開するものとする。

1. リニアモーターカーによる、首都圏、中部圏、近畿圏を結び、さらに、中国地方に連絡する「中央リニアエクスプレス」の整備を、国家プロジェクトとして推進すること。
2. 「中央リニアエクスプレス」の整備にあたっては、東海道・山陽新幹線の輸送実績、国際文化観光都市京都並びに関西文化学術研究都市を勘案し、「京都」を通るルートで計画を策定し、早期建設を図ること。

平成2年1月23日

京都府中央リニアエクスプレス推進協議会